

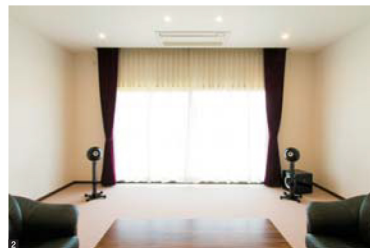
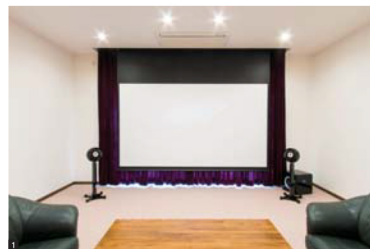


以前は応接室として使用していた部屋を、ホームシアター用にリフォーム。ケابلも隠蔽して全く見えないようにしたこだわりの空間だ。

キングの隣にある応接室だった。そこにかくも見事なホームシアターがインストールされている。担当したのは、気鋭のインストールショップ「木田電業」の木田弘信氏だ。

「Kさんからはホームシアター以外にも、ダイニングにあるテレビの音を聞き取りやすくしてほしいなど、様々なご要望をいただきました。リフォームされるタイミングでしたので、音楽や映画を心ゆくまで楽しんでいただく暮らしをご提案しました。映像とサウンドは最高峰を追求し、操作はできるだけシンプルかつ便利にご活用いただけるようにまとめました」と、木田氏。

一番の目玉は、美しくそしてソファを囲むように整然と並んでいる富士通テンのスピーカー「ECLIPSE SE（イクリプス）」である。ただ美しいだけではない。サウンドクォリティーを熟慮して、メーカーにも協力を仰ぎ、神戸にある富士通テンの本社視聴室で厳密なシミュレーションを敢行。各スピーカーの理想的な位置、角度を決めたという。そんなイクリプスが奏でるサウンドは、各スピーカーの存在が消え、150インチという大画面にある映像世界



■スクリーンサイズは150インチ。天井を掘り込み、スクリーンケースが視座位置からも見えないように調整している。また、音を歪んでしまうためセンタースピーカーのない4.1.2chのフロント構成としているが、フロントスピーカーにイクリスのフラッグシップ「TD712MK2」を採用したことで、中抜けしないようにしている。

■スクリーンの設置位置は悩んだポイントだが、音楽を聴きながら手入りの行き届いた庭を見られるように、窓の前に障りるようにした。

使わない応接室を シアターリフォーム

映画と音楽を心ゆくまで
楽しむ暮らしを提案

映画館のある家③「個人劇場の様式」

至高の音を求めた専用室

インストール/木田電業 宮崎崇K邸

文/編集部 写真/草野清一郎

